

治療した部位と治療方法

1 問診診察結果 (赤いスカーフ 縫いぐるみ犬)

- (1) 全く動かない
- (2) 正常な動きは、トコトコ動き、立ち止まりワンワンと鳴く
- (3) 電池点検する。3本のうち1本だけ1.5ボルト有り、他2本は1.26Vだった。
- (4) 電池新品3本入れ、スイッチONするも全く反応なし。

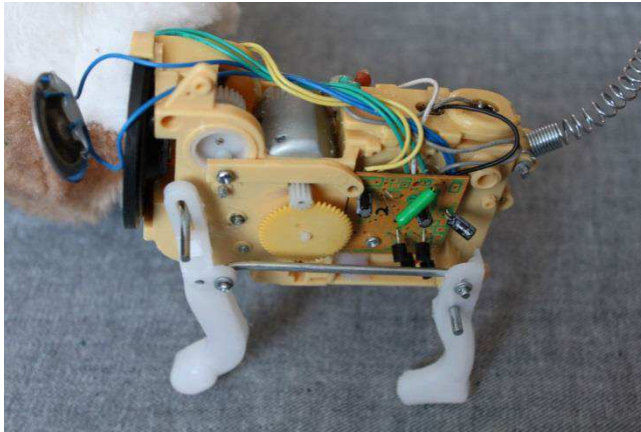


図-1

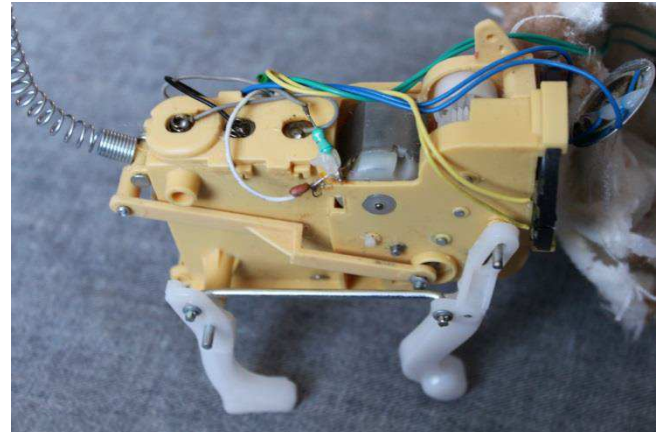


図-2

- (5) モーターへ直に3ボルトかけるとモーターと歯車は回転する。
- (6) スピーカーも異常なし。センサーも異常なし。
- (7) 基板も目視(拡大鏡視含)では綺麗なもの。
- (8) 電圧があるべきところに無いことが分かった。原因は、図-3の背中後ろ半分の電池BOXの蓋だった。蓋の止め具が折れている。そして上に開いている。この原因で導通していなかった。図-4は、同部位の修理後の写真を修正して止め具の折れを示したものである。

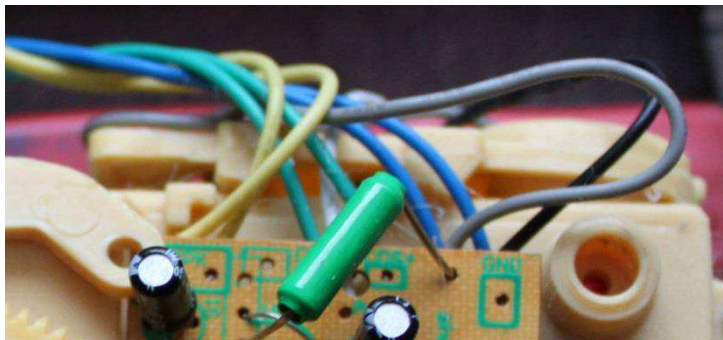


図-3

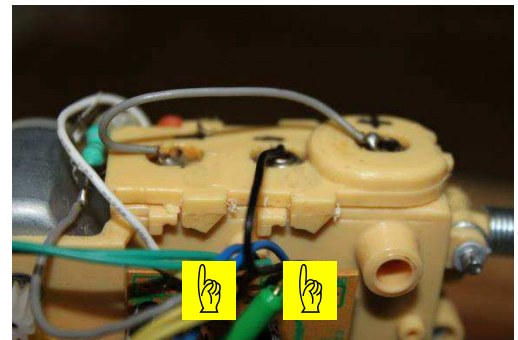


図-4

2 治療の方法

- (1) 止め具を修理するよりも、別の方法が簡単で確実と考え、図-5・図-6のようにネジ止めした。

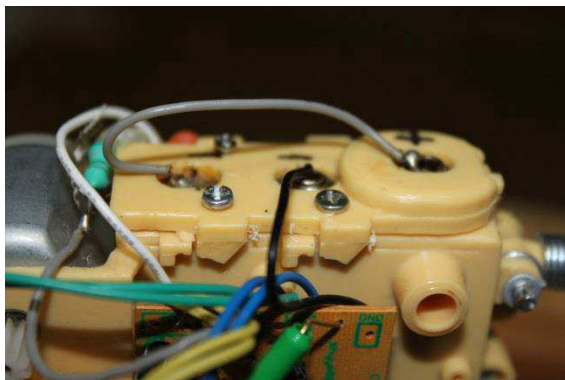


図-5

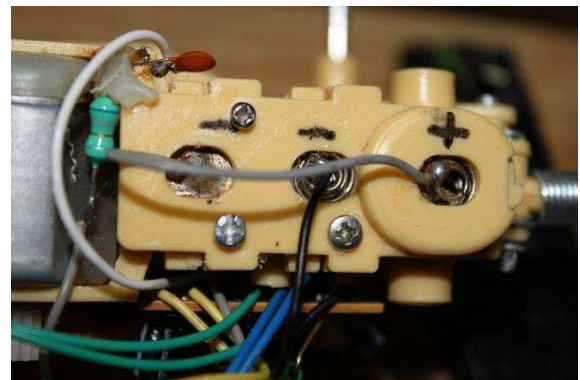


図-6

- (2) 左後ろ足が折れていた。先に瞬間接着剤アロンアルファで繋いでおいて、十分乾燥した後図-7のように、廃品の同質材料を金ひき鋸でひき、その屑をアロンアルファで素早く練って詰め込み補強をした。右後ろ足も3分の1強割れていて、近いうち必ず折れる状態だったので右後ろ足図-8も図-7と同様の方法で治療した。



図-7 左足



図-8 右足

- (3) 最後に一つ重要なことがあります。

図-9



図-10



7図・8図にも見られるスイッチです。この図で左一杯スライドさせるとSWは「ON」とならない。

要領として、左(ON方向)に一杯スライドさせた後1mmほどバックさせるとONになります。黒線が目安です。

10図はこのスライドSWの構造です。

- (4) 以上電源BOXと後ろ足の左右を治療しました。左右の写真は完治した姿です。

中の写真は、大きな胴体、その中にはかなりの重さのものが入っています。

それに対して、どうしてこのような「足」なのかと残念に思います。骨折が多いのが分かります。



図-9

3 ドクターからのアドバイス

図-1・図2・図-9の写真を見てもお分かりのように、「足」の作りが非常に「か細い」ものです。扱いには十分注意をしないと骨折しますので、やさしく可愛がってあげましょう。

お渡しした日 : 平成28年2月27日

担当ドクター : 谷 春 雄